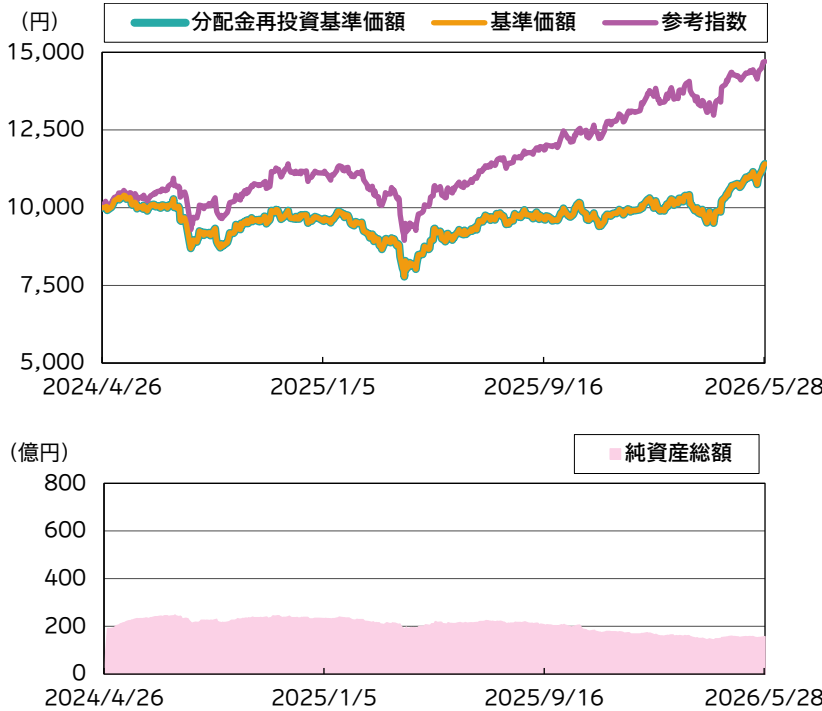


運用実績

運用実績の推移

(設定日:2024年4月30日)



※基準価額は、信託報酬控除後の価額です。参考指数を含め、設定前営業日を10,000円として指数化しています。なお、信託報酬率は「ファンドの費用」をご覧ください。
※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。
※参考指数は、MSCI ワールド・中小型株インデックス(配当込み、円換算ベース)です。指数についての詳細は後掲の「指数の著作権などについて」をご参照ください。

分配金の実績(税引前)(直近3年分)

期	決算日	分配金(円)
第1期	2025/05/12	0
第2期	2026/05/11	0
-	-	-
設定来累計分配金		0

※分配金は、1万口当たりの金額です。
※分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月末
基準価額(円)	11,411	10,655
純資産総額(百万円)	15,684	15,387

※基準価額は、1万口当たり。

	基準価額(円)	基準日
設定来高値	11,411	2026/05/29
設定来安値	7,780	2025/04/09

※同一の基準価額が複数ある場合、直近の日付を表示しています。

騰落率(税引前分配金再投資)(%)

	ファンド	参考指数
1ヵ月	7.1	3.8
3ヵ月	10.1	5.1
6ヵ月	16.7	15.2
1年	25.7	39.7
3年	-	-
5年	-	-
10年	-	-
設定来	14.1	47.0

※騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。
※各期間は、基準日から過去に遡っています。また、設定来の騰落率については、設定当初の投資元本を基に計算しています。

ポートフォリオ構成 (%)

株式等現物	97.1
現金等	2.9
合計	100.0
株式先物	-
株式実質組入(現物+先物)	97.1

※組入比率は、純資産総額に対する実質的な割合です。
※現金等の中には未払金等が含まれるため、比率が一時的にマイナスとなる場合があります。

基準価額変動の要因分析(前月末比) (円)

キャピタル	820
インカム	90
為替要因	-48
小計	862
信託報酬	-15
その他要因	-91
分配金	0
合計	756

※要因分析は、組入有価証券の値動き等が基準価額に与えた影響等をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その完全性、正確性を保証するものではありません。

サーキュラー・エコノミー・マザーファンドの状況

※ロンパー・オディエ社のデータを基に委託会社を作成しています。

組入上位10業種 (%)		
	業種	組入比率
1	資本財・サービス	24.3
2	情報技術	22.0
3	一般消費財・サービス	16.9
4	素材	13.0
5	生活必需品	5.9
6	ヘルスケア	5.2
7	公益事業	5.0
8	不動産	3.4
9	コミュニケーション・サービス	2.2
10	金融	2.1

組入上位10カ国・地域 (%)		
	国・地域	組入比率
1	米国	52.4
2	日本	7.4
3	ケイマン	5.0
4	フランス	4.5
5	アイルランド	4.5
6	英国	4.2
7	オランダ	3.6
8	シンガポール	3.1
9	ジャージー(チャネル諸島)	2.6
10	ドイツ	2.1

組入上位10通貨 (%)		
	通貨	組入比率
1	米ドル	62.7
2	ユーロ	17.6
3	日本円	7.4
4	英ポンド	3.7
5	台湾ドル	2.7
6	オーストラリア・ドル	1.8
7	デンマーク・クローネ	1.8
8	ブラジル・リアル	1.7
9	香港ドル	0.6

※組入比率は、組入有価証券評価額に対する割合です。

※業種は、世界産業分類基準(GICS)によるものです。

※組入比率は、組入有価証券評価額に対する割合です。

※国・地域は、原則として法人登録国または地域を表示しています。

※組入比率は、組入有価証券評価額に対する割合です。

○当ファンドでは、サーキュラーエコノミーへの移行において重要と考えられる4つの投資テーマとして「循環型バイオエコノミー」「廃棄物ゼロ」「成果志向型経済」「資源効率性」に着目し、これら4つの投資テーマに関連して収益機会を拡大することが期待される企業に投資を行います。

投資テーマ別組入比率 (%)	
投資テーマ	組入比率
循環型バイオエコノミー	27.7
廃棄物ゼロ	15.2
成果志向型経済	14.0
資源効率性	43.2

※組入比率は、組入有価証券評価額に対する割合です。

※投資テーマは、ロンパー・オディエ社による分類です。概要については、後掲の「投資テーマ」をご参照ください。

<<サーキュラー・エコノミー・マザーファンドにおけるサステナビリティ評価例>>

気候変動に関連する指標

(トンCO2/投資額百万米ドル)			(℃)		
項目	マザーファンド	(ご参考) 世界中小型株式	項目	マザーファンド	(ご参考) 世界中小型株式
温室効果ガス排出量	667.5	731.3	気温上昇への影響	2.6	2.8

※温室効果ガス排出量は、各社が公表している情報を基に、基準日時点のサーキュラー・エコノミー・マザーファンド、世界中小型株式の構成企業全体の温室効果ガス排出量を、それぞれの企業価値(時価総額+負債-現金・現金同等物)に対する投資額の割合で按分して算出し、二酸化炭素相当量に換算した値です。

※気温上昇への影響は、世界全体が2100年まで、マザーファンド、世界中小型株式の構成企業と同様に温室効果ガスの排出を削減し続けた場合の気温上昇幅を、各社が公表している情報を基にロンパー・オディエ社が独自の方法で算出したものです。

※世界中小型株式は、MSCI ワールド・中小型株インデックスを使用しています。当ファンドのベンチマークではありません。

※ロンパー・オディエ社の判断で、予告なく項目が変更または追加になる場合があります。

組入上位10銘柄 (%) (組入銘柄数 76)

	銘柄 国・地域 業種	組入 比率	銘柄紹介
			投資テーマ サステナビリティ評価ポイント
1	フレックス シンガポール 情報技術	3.1	<p>航空宇宙・防衛、デジタルヘルス、照明、住宅、エネルギー、工業、通信業界向けにODM製品(他社ブランドによる製品の設計・製造)を設計、開発する電子機器メーカー。世界中の顧客にサービスを提供している。</p> <p>資源効率性 同社は顧客に代わり、生産量の集約、プロセスの標準化、および設備稼働率の最適化を担っています。このビジネスモデルは、資源の過剰消費や生産の分散化、重複する自社向上に内在する無駄といった、自然資本に関する課題に直接対処するものです。また、同社の事業規模は、個々のメーカーが経済的に再現できない、部品の再利用、製造を考慮した設計、材料歩留まりの最適化、および集中化された廃棄物・水管理といった循環型の実践を支えています。こうした効率化は単位当たりの採算性と事業のレジリエンスを向上させます。</p>
2	アジレント・テクノロジー 米国 ヘルスケア	2.7	<p>電子計測機器メーカー。ライフサイエンス、診断、応用化学市場などで事業を展開しており、世界中のラボ向けに、装置、サービス、消耗品、アプリケーション、ソリューションを提供している。</p> <p>廃棄物ゼロ 環境試験は汚染物質や生態系の汚染状況を管理する上で必要不可欠です。同社は、農業から医薬品残留物、微量金属まで、世界中の食品に含まれる化学物質、ウイルス、細菌、微生物など、化学物質やその他の物質を測定するためのソリューションを提供しています。顧客には、食品の安全性を管理する政府機関や研究所、食品を製造、包装、販売する民間企業などが含まれます。食品の安全性管理だけでなく、空気や水、土壌の質の向上、正確な診断と標的治療によるがん撲滅など、人々の生活の質向上に努めています。</p>
3	スチール・ダイナミクス 米国 素材	2.4	<p>米国で多様な炭素鋼の生産および金属事業を展開する鉄鋼会社。鉄鋼事業や金属リサイクル・鉄資源事業、鉄鋼製造事業に従事する。主な製品には、圧延鋼シート、特殊棒鋼、構造用形鋼などが含まれる。</p> <p>資源効率性 同社の鉄鋼生産は、すべて炭素排出量が少ない電炉(EAF)方式によって行われています。1トンあたりの排出量は高炉方式が主流である業界平均に比べて圧倒的な低水準を誇ります。また、原料となる鉄スクラップを自社のリサイクル事業から調達している点も特徴です。最新鋭のアルミニウム工場も、環境性能と排出抑制の面で米国トップクラスとなる見込みです。米国内の需要家は低炭素な電炉鋼やアルミニウムへの要求を強めており、この傾向は今後も継続するとみています。</p>
4	エコラボ 米国 素材	2.3	<p>衛生サービス会社。食品、ヘルスケア、ホスピタリティ、産業、石油・ガス市場の顧客向けに、食品安全、衛生管理、水とエネルギー利用の最適化、業務効率性・持続可能性の向上などを含む水、衛生、感染予防ソリューションを提供する。</p> <p>循環型バイオエコノミー 世界の水処理システムは、深刻化する水不足や都市部・産業界における不適切な水管理、水質の悪化、不十分な廃水処理能力により、改修を迫られています。その為、世界各地で水インフラへの投資が加速しており、新たな水処理ソリューションに対する構造的な需要を創出しています。こうした潮流の中で、水処理・浄化サービスの世界的リーダーである同社は、洗剤や食品加工分野にも強みを持ち、環境変化に対して柔軟に対応しています。また、圧倒的なブランド力とサービス品質の高さにより、原材料費の高騰を販売価格に転嫁することが可能です。</p>

	銘柄 国・地域 業種	組入 比率	銘柄紹介
			投資テーマ サステナビリティ評価ポイント
5	コンパス・グループ 英国 一般消費財・サービス	2.2	<p>ケータリング会社。世界各地で、オフィスや工場、病院、介護施設、学校、軍事施設などにおいてケータリングやサポートサービスを手掛ける。</p> <p>廃棄物ゼロ</p> <p>同社は2030年までに食品廃棄物を半減すること、たんぱく質の40%を動物性から植物性に移行すること、そして主要食品の70%を再生農業から調達することを目指しています。また、食品廃棄物の削減に関する啓発活動にも取り組んでおり、「Too Good To Go」アプリと提携して、残った食品の流通を最適化に努めています。さらに、資材の改善、総量の抑制、および再生材比率の向上を通じて、パッケージの最適化にも取り組んでいます。サプライチェーンにおいては、森林破壊や土地転換を伴わない調達の実現も目指しています。</p>
6	クラウン・ホールディングス 米国 素材	2.1	<p>容器メーカー。食品や飲料用のアルミ缶、缶口、キャップなどを世界各地で設計、製造、販売する。米国が主要市場だが、新興国市場、特に東南アジアにおいて、大きな存在感を示している。</p> <p>資源効率性</p> <p>包装材業界では、プラスチック包装をアルミニウム包装に置き換える動きが強まっています。特に欧州では、プラスチック包装におけるリサイクルプラスチックの最低含有率が導入される予定であり、転換期を迎えています。また、消費者向け製品のプラスチック代替目標を設定し、より持続可能な素材への移行を重視する企業も増えています。同社は、PET素材の代替としてアルミニウムに置き換える世界的なトレンドの恩恵を受ける優位な立場にあり、持続的な成長が見込まれています。</p>
7	エアビーアンドビー 米国 一般消費財・サービス	2.0	<p>滞在や体験を提供するグローバルプラットフォームを運営する旅行情報・予約サイト運営会社。ウェブサイトやモバイルアプリケーションを通じて宿泊、ホームステイ、および旅行サービスを提供する。</p> <p>成果志向型経済</p> <p>同社は活用されていない住宅資産を収益化することで、既存の建造物の稼働率と経済的生産性を高めています。こうした潜在的な需要の掘り起こしは、新規のホテル建設やそれに伴う資材投入の必要性を抑制します。それは、資源効率やサーキュラー・エコノミーを重視する「ネイチャーポジティブ」の考え方も合致します。また、同社は2030年までに企業活動における排出量を実質ゼロにすることを約束すると共に、カーボンクレジットの購入においては自然由来のソリューションを優先的に選択しています。</p>

	銘柄 国・地域 業種	組入 比率	銘柄紹介
			投資テーマ
			サステナビリティ評価ポイント
8	アルコア 米国 素材	1.9	<p>ボーキサイトの採掘からアルミナの精錬、アルミニウムの製錬・鋳造、さらにはエネルギー事業までを垂直統合型で展開する金属製品メーカー。アルミナとアルミニウムの2つの事業セグメントで構成される。</p> <p>資源効率性</p> <p>同社は、品質を損なわずに何度も再利用できるアルミニウムの特性を活かし、サプライチェーン全体でサーキュラーエコノミーを推進しています。例えば、同社の低炭素アルミニウムブランドの1つである「EcoDuraアルミニウム」は最低50%以上のリサイクル材を使用することで、大幅なエネルギー消費量削減と環境負荷の低減を実現しています。また、様々な不純物が混ざった低品質なスクラップから高純度アルミニウムを精製する技術を開発し、使用済みアルミニウムの利用拡大を支援しています。</p>
9	グッドマン・グループ オーストラリア 不動産	1.8	<p>不動産投資やファンドマネジメント、不動産開発、不動産管理サービスを手掛ける総合不動産会社。オーストラリアやニュージーランド、アジア、欧州で、ビジネスパークや物流施設、倉庫、データセンターなどを保有、開発、管理する。</p> <p>資源効率性</p> <p>同社は、効率性や再利用性、環境負荷の低減を追求した高品質の物流・産業インフラを開発・管理しています。多くのプロジェクトで、未開拓の自然を切り開くのではなく、すでに開発された既存の土地を再開発することに注力し、廃棄物の削減と自然破壊の防止を両立しています。また、ネイチャーポジティブな社会を実現する為に、再生可能エネルギーを積極的に導入しているほか、資源効率の高いサプライチェーンの構築に取り組んでいます。さらに既存施設の解体時に発生する資材を再利用することによって、廃棄物の発生を防いでいます。</p>
10	ノボザイムス デンマーク 素材	1.8	<p>バイオソリューション会社。農業、食品・飲料、家庭用品、医薬品などの分野向けに工業用酵素、微生物、機能性タンパク質、バイオ医薬品成分の研究、開発、製造を行う。農業分野や動物用健康・栄養分野では、幅広いパートナーシップを結んでいる。</p> <p>循環型バイオエコノミー</p> <p>同社は食品廃棄物問題への取り組みやすべての有効成分が完全に生分解性である点において、「ネイチャーポジティブ」な社会の実現に大きく貢献しています。クリスチャン・ハンセン社との合併を経て、同社は酵素および微生物分野のグローバルリーダーとしての地位を盤石なものにしました。同社の分子・微生物技術は、栄養価を高めるための食品配合の刷新や次世代技術である精密発酵への移行を支える機能性原料を生み出しています。加えて、同社のソリューションは、現代の食文化が求める幅広いニーズに対応しています。</p>

※組入比率は、組入有価証券評価額に対する割合です。

※国・地域は、原則として法人登録国または地域を表示しています。

※業種は、世界産業分類基準(GICS)によるものです。

※サステナビリティ評価ポイントは、ロンバー・オディエ社が独自にサステナビリティの観点により企業を評価したものです。

※当該個別銘柄の揭示は、銘柄推奨を目的としたものではありません。

マーケット動向とファンドの動き

5月のグローバル中小型株式市場は上昇しました。上旬は、米国とイランの軍事衝突が終結に向かうとの期待感から買いが優勢となったほか、良好な決算や強い需要を背景としたAI・半導体関連銘柄の上昇が牽引し、堅調に推移しました。一方で、トランプ大統領がEU(欧州連合)に対し、貿易合意の不履行を理由に大幅な関税引き上げを示唆したことで、欧州では一時的に下げる局面がみられました。中旬は、需要の強さが引き続き意識され、AI・半導体関連銘柄を中心に一時は上昇する場面がみられました。しかし、原油価格の高止まりを受けてインフレ懸念が強まったことから、その後は売りに押されました。下旬は、米国とイランの和平交渉進展が伝わると原油価格が落ち着きを取り戻し、過度なインフレ懸念が後退したことから、上昇に転じました。月末に停戦延長と戦闘終結に向けた暫定合意が報じられると一段高となりました。セクター別では、情報技術やヘルスケア、素材セクターの上昇が目立ちました。5月末の米ドルの対円レートは前月末比で下落しました。その結果、当ファンドの基準価額は前月末比で上昇しました。個別銘柄では、クラウドおよび電力インフラ部門の分社化や堅調な業績を発表した電子機器メーカーのフレックスや、良好な業績見通しを示した資材技術会社のユミコアなどの株価上昇が目立ちました。

今後のマーケット見通しと今後の運用方針

トランプ政権の政策やイラン情勢に対する不透明感、原油高によるインフレ懸念などが相場の重しとなる一方で、堅調な企業業績やAI関連設備投資の拡大などが株式市場を下支えするとみています。また、世界経済は底堅さを維持していることから、2025年に比べてより広範なセクター及び銘柄に物色の動きが広がると考えています。そのなかでも、当ファンドの主要投資対象である中小型株は相対的な出遅れ感もあって、市場の注目を集めると考えています。当ファンドではサーキュラーエコノミーへの移行によって恩恵を受ける、高クオリティ且つ、企業固有の要因によって高い成長が見込まれる企業に投資を行う方針です。そのなかで、様々な業界におけるシステムの変化を特定し、ネイチャーポジティブ(自然再興)且つデジタル化された社会への移行に伴う投資機会を的確に捉えると共に、市場で過小評価されている構造的な成長を享受できる企業に投資を行う方針です。

※マーケット動向とファンドの動きは、過去の実績であり将来の運用成果等をお約束するものではありません。また、見通しと運用方針は、作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

※当資料中の各数値については、表示桁未満の数値がある場合、原則、四捨五入して表示しています。

※当資料中の各数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてアセットマネジメントOneが作成した資料であり、投資信託説明書(交付目論見書)ではありません。
「投資信託に関する留意点」、「当資料のお取扱いについてのご注意」をよくお読みください。

ファンドの特色

信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。

1. 主として、世界(わが国および新興国を含みます。)の企業の中から、サーキュラーエコノミー(循環経済)*¹の実現に寄与する事業に取り組み、成長が期待される企業の株式*²に実質的に投資を行います。

*1 サーキュラーエコノミーとは、資源を循環的に利用しつつ付加価値を生み出すことを目指す、循環型の社会経済システムです。

*2 DR(預託証券)もしくは株式と同等の投資効果が得られる権利を表示する証券および証書等を含みます。

● サーキュラー・エコノミー・マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)への投資を通じて、世界の金融商品取引所(わが国および新興国を含みます。)に上場する株式(上場予定を含みます。)に実質的に投資を行います。なお、マザーファンドの組入比率は、原則として高位を維持します。

● 株式の実質組入比率は、原則として高位を維持します。

● 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。このため、基準価額は為替変動の影響を受けます。

2. 社会環境の変化に関するリサーチと、独自のフレームワークを用いた各銘柄の評価を基に、サーキュラーエコノミーの実現に寄与する事業に取り組み、成長が期待される銘柄を厳選して投資を行います。

● 社会環境の変化に関するリサーチによって、今後拡大することが期待される収益機会を特定します。

● ロンバー・オディエ社*¹独自のフレームワークによって、環境や社会、ガバナンスの観点で望ましくないと考えられる企業を投資対象から除外し、サステナビリティの観点による企業の評価を実施します。

● 社会環境の変化への対応、ビジネスモデル、バリュエーション(株価指標)、資本効率などの観点から優れていると判断される銘柄を厳選して投資を行います。

● マザーファンドの純資産額のうち、ESG*²を主要な要素として選定する銘柄への投資額(時価ベース)の比率について70%以上を目標とします。

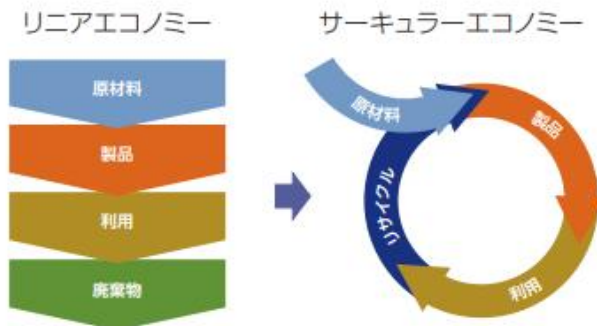
*1 ロンバー・オディエ社とは、ロンバー・オディエ・グループの資産運用部門に属する企業の総称です。

*2 「ESG」とは、環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)の略称です。

ファンドの特色

サーキュラーエコノミー(循環経済)とは

- ◆サーキュラーエコノミーとは、大量生産・大量消費を伴う一方通行型の経済社会システム(リニアエコノミー)から脱却し、社会全体で資源の投入量や消費量を抑え、資源を循環的に利用しつつ付加価値を生み出すことを目指す、循環型の経済社会システムです。
- ◆大量生産・大量消費を伴う経済社会システムは、気候変動問題や天然資源の枯渇、生物多様性の破壊など様々な環境問題の要因となっています。資源・エネルギーや食糧の需要増大、廃棄物発生量の増加が世界全体で深刻化する中で、限りある資源を持続可能な形で効率的に利用する「サーキュラーエコノミー」への移行を目指すことが求められます。



サーキュラーエコノミーの3原則

- ◆廃棄物や汚染を生み出さない
- ◆製品と素材を(高い価値の状態のまま)循環させる
- ◆自然を再生させる

(出所)環境省、エレン・マッカーサー財団等の情報を基に委託会社作成

投資テーマ

- ◆当ファンドではサーキュラーエコノミーへの移行において重要と考えられる4つの投資テーマとして「循環型バイオエコノミー」「廃棄物ゼロ」「成果志向型経済」「資源効率性」に着目します。
- ◆これら4つの投資テーマに関連して収益機会を拡大することが期待される企業に投資を行います。



循環型バイオエコノミー

バイオテクノロジーやバイオマテリアルなど、生物資源を活用することによって環境負荷を低減することを目指す。
製品やサービス:分解性のバイオプラスチック、紙およびパルプボードの包装材料 など



廃棄物ゼロ

リサイクルの推進や食品ロスの削減などによって、可能な限り廃棄物を出さないことを目指す。
製品やサービス:廃棄物の少ない包装資材、廃棄物処理インフラサービス など



成果志向型経済

モノの製造や販売を重視する経済から、製品がもたらす利用価値や成果を重視する経済への転換を目指す。
製品やサービス:シェアリング・サービス、耐久性のある商品、商品の修理サービス など



資源効率性

経済活動における資源の消費を抑制することで、資源の採集や使用、廃棄物処理に伴う環境への悪影響の低減を目指す。
製品やサービス:製品デザイン向けソフトウェア、リサイクル率の高い金属素材 など

※上記の投資テーマや関連する製品・サービスは 2025 年 11 月末時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

(出所)ロンパー・オディエ社の情報を基に委託会社作成

ファンドの特色

3. マザーファンドの運用にあたっては、ロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(ヨーロッパ)リミテッド*1 に運用指図に関する権限の一部(株式等の運用の指図に関する権限)を委託します。

- ロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(ヨーロッパ)リミテッドは、その委託を受けた運用の指図に関する権限の一部を、ロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(スイス)エス・エー*2 およびロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(USA)コープ*3 に再委託します。

- *1 ロンバー・オディエ社の英国拠点です。
- *2 ロンバー・オディエ社のスイス拠点です。
- *3 ロンバー・オディエ社の米国拠点です。

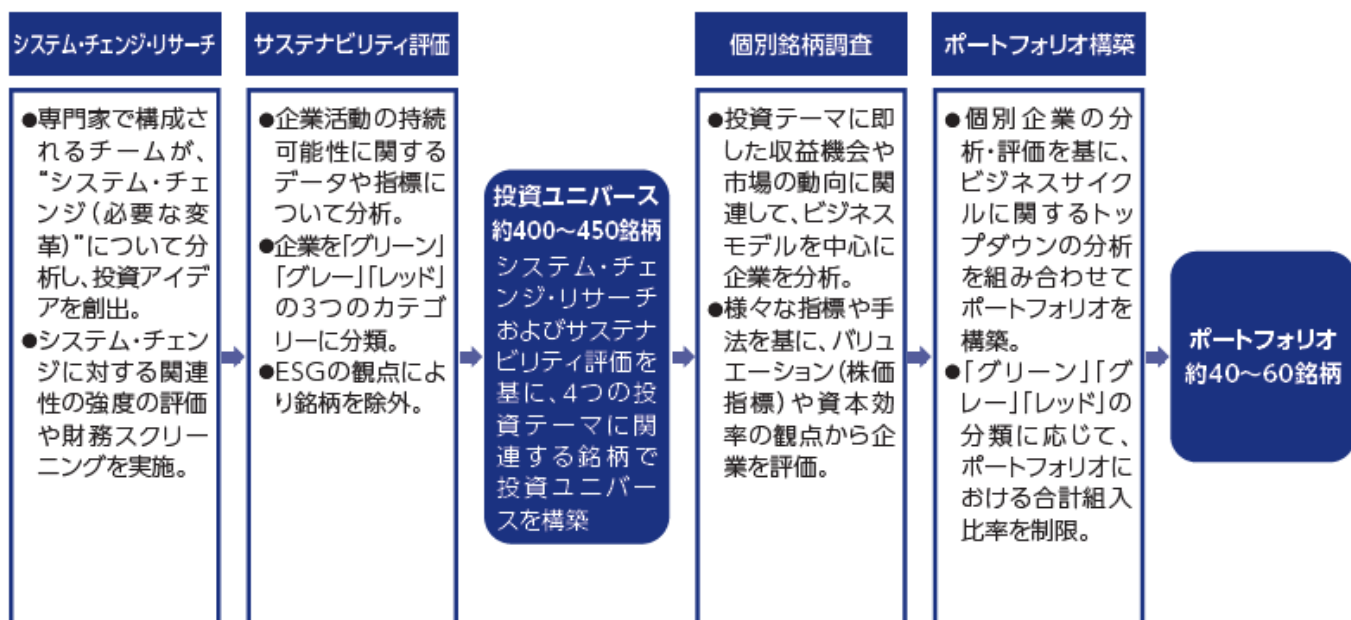
ロンバー・オディエ・グループについて

- ロンバー・オディエ・グループは欧州最大級のプライベートバンクです。
- ロンバー・オディエ・グループは 1796 年の創立以来、200 年以上にわたって富裕層や機関投資家に資産運用サービスを提供しています。
- ロンバー・オディエ・グループの資産運用部門はヨーロッパ、アジア、北米に複数拠点を有し、グローバルな運用体制を構築しています。
- ESG 投資においては長期にわたって独自の取り組みを実践しています。

※ロンバー・オディエ社とは、ロンバー・オディエ・グループの資産運用部門に属する企業の総称です。

(出所)ロンバー・オディエ社の情報を基に委託会社作成

運用プロセス



※上記はマザーファンドの運用プロセスです。

※運用プロセスは、2025年11月末時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

(出所)ロンバー・オディエ社の情報を基に委託会社作成

ファンドの特色

システム・チェンジ・リサーチ

◆ロンパー・オディエ社では、環境科学や政策、経済学などの専門家によるリサーチチームが、長期的な社会環境の変化に関するリサーチを行います。

◆幅広いテーマに関連したリサーチを基に、テクノロジーや政策、ビジネスモデルなどに関する分析を行い、投資アイデアを創出します。
代表的なリサーチ内容



※リサーチ内容は上記に限定されません。

※上記のシステム・チェンジ・リサーチは、マザーファンドについての内容です。

※上記のリサーチ内容は 2025 年 11 月末時点での情報であり、今後予告なく変更される場合があります。

(出所)ロンパー・オディエ社の情報を基に委託会社作成

サステナビリティ評価

◆個別の企業に対してサステナビリティの観点から分析・評価を行い、各銘柄を「グリーン」「グレー」「レッド」に分類します。

◆マザーファンドにおける「グリーン」銘柄の合計組入比率は 70%以上とします。なお、「レッド」銘柄の合計組入比率は参考指数(MSCIワールド・中小型株インデックス)における「レッド」相当銘柄の構成比率の 50%以下とします。

※「レッド」銘柄は、投資テーマに関連して重要な役割を果たしているとロンパー・オディエ社の会議体で承認した場合のみ、投資ユニバースへの選定およびポートフォリオへの組み入れが行われます。

◆環境や社会、ガバナンスの観点で望ましくないと考えられる企業を除外します。

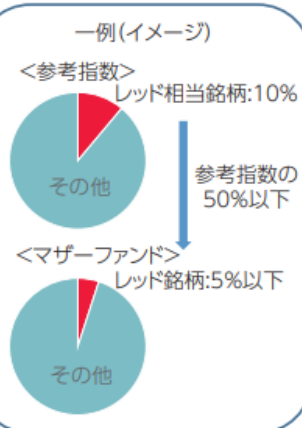
ESGの観点による除外

- 次のような環境や社会、ガバナンスの観点で望ましくないと考えられる企業には投資を行いません。
- ◆非人道的兵器を製造、取引、保管する企業
 - ◆たばこ、石炭採掘、石炭火力発電、非在来型石油・ガスに関連する収益寄与が一定のしきい値を超える企業
 - ◆人権、労働、環境、腐敗防止の観点で懸念のある企業

サステナビリティ評価に基づき企業を分類

- ◆独自のフレームワークによって企業を評価し、「グリーン」「グレー」「レッド」に分類します。
- ◆対象となる企業について、「持続可能な事業の業績への寄与度」「環境や社会に与える悪影響」「適正なガバナンス」の3つの観点を「サステナブル」「中立」「課題あり」の3段階で評価し、最終的な分類を決定します。

分類	対象企業	合計組入比率
グリーン	3つの観点すべてで「サステナブル」と評価する企業	70%以上
グレー	「中立」と評価する観点があるものの、「課題あり」と評価する観点がない企業	ルールなし
レッド	3つの観点のうち、「課題あり」と評価する観点が1つでもある企業	参考指数における「レッド」相当銘柄の構成比率の50%以下



※MSCIワールド・中小型株インデックスは世界の先進国の中型および小型の株式で構成される指数です。

※MSCIワールド・中小型株インデックスは当ファンドのベンチマークではありません。

※上記のサステナビリティ評価は、マザーファンドについての内容です。

※上記は 2025 年 11 月末時点での情報であり、今後予告なく変更される場合があります。

(出所)ロンパー・オディエ社の情報を基に委託会社作成

ファンドの特色

ロンバー・オディエ社のスチュワードシップに関する声明

責任ある投資家として持続可能な企業を実現するために、企業と対話し、議決権を行使する義務があります。スチュワードシップ活動を通じて、次の主要な目標を達成することを目指します。

- ・持続可能な社会への移行に寄与する取り組みを促進します。企業に対するサステナビリティ評価の結果を踏まえてスチュワードシップ活動に取り組むことで、企業の持続可能な社会への移行に関するより高い目標設定と信頼性の向上、開示および実践の改善を促進し、議論に取り組む中で役割を果たします。
- ・持続可能性に関する一連のResearchを活用し、スチュワードシップ活動を通じて、企業の持続可能な収益源への移行について支援、推進することを目指します。

私たちは、投資チームやリサーチチームと一体となって、アセットクラスを横断した企業との対話と議決権の行使を通じて、スチュワードシップの責任を果たします。私たちは、持続可能な社会への移行に寄与する取り組みと持続可能なリターンを促進するために、企業と対話し議決権を行使します。この対話を通じて企業の持続可能性に対する理解を高め、さらに投資に関する分析に反映します。

※上記は 2025 年 11 月末時点での情報であり、今後予告なく変更される場合があります。

※上記はロンバー・オディエ社の情報を基に委託会社が作成したものであり、ロンバー・オディエ社が開示する原文(英文)と齟齬がある場合には原文が優先されます。

(分配方針)

年1回の決算時(毎年5月 10 日(休業日の場合は翌営業日))に、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額を対象として、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。

分配金が支払われない場合もあります。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

主な投資リスク

当ファンドは、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

また、投資信託は預貯金と異なります。

なお、基準価額の変動要因は、下記に限定されるものではありません。

● 株価変動リスク

株式の価格は、国内外の政治・経済・社会情勢の変化、発行企業の業績・経営状況の変化、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式市場や当ファンドが実質的に投資する企業の株価が下落した場合には、その影響を受け、基準価額が下落する要因となります。また、当ファンドは実質的に企業のESGへの取組みを考慮した投資を行うことから、投資対象が株式市場全体と比べて特定の銘柄や業種に偏ることがあり、このため基準価額の変動が株式市場全体の動向から乖離することや、株式市場が上昇する場合でも基準価額が下落する場合があります。

● 為替変動リスク

為替相場は、各国の政治情勢、経済状況等の様々な要因により変動し、外貨建資産の円換算価格に影響をおよぼします。当ファンドは、実質組入外貨建資産について原則として為替ヘッジを行わないため為替変動の影響を受けます。このため為替相場が当該実質組入資産の通貨に対して円高になった場合には、実質保有外貨建資産が現地通貨ベースで値上がりした場合でも基準価額が下落する可能性があります。

● 流動性リスク

有価証券等を売却または取得する際に市場規模や取引量、取引規制等により、その取引価格が影響を受ける場合があります。一般に市場規模が小さい場合や取引量が少ない場合には、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないことや、値動きが大きくなる場合があります。基準価額に影響をおよぼす要因となります。

● 信用リスク

有価証券等の価格は、その発行者に債務不履行等が発生または予想される場合には、その影響を受け変動します。当ファンドが実質的に投資する株式の発行者が経営不安・倒産に陥った場合、また、こうした状況に陥ると予想される場合、信用格付けが格下げされた場合等には、株式の価格が下落したり、その価値がなくなることがあり、基準価額が下落する要因となります。

● カントリーリスク

投資対象国・地域の政治経済情勢、通貨規制、資本規制、税制、また、取引規制等の要因によって資産価格や通貨価値が大きく変動する場合があります。海外に投資する場合には、これらの影響を受け、基準価額が下落する要因となる場合があります。当ファンドは実質的に新興国の株式にも投資を行う場合があります。新興国の経済状況は、先進国経済と比較して一般的に脆弱である可能性があります。そのため、当該国のインフレ、国際収支、外貨準備高等の悪化等が株式市場や為替市場におよぼす影響は、先進国以上に大きいものになることが予想されます。さらに、政府当局による海外からの投資規制や課徴的な税制、海外への送金規制等の種々の規制の導入や政策の変更等の要因も株式市場や為替市場に著しい影響をおよぼす可能性があります。

● ESG情報・評価に関連する制約

当ファンドで勘案するESG情報は、委託会社および運用外部委託先が独自調査で入手した情報だけでなく、第三者のESG情報ベンダーによる情報や評価が含まれている場合があります。これらのESG情報は、企業開示や企業アンケート、取材等により入手・収集されますが、ESG情報ベンダーからの提供情報は、当該情報ベンダーの情報収集力により情報量が制限されることがあります。また、企業によって開示された情報やメディアによって報道される情報は、タイムリーに評価結果に反映されないことがあります。また、委託会社および情報ベンダーによる評価基準の変更により、過去からの情報継続性が失われることがあります。

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位(当初元本1口=1円)	信託期間	2045年5月10日まで(2024年4月30日設定)
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額(基準価額は1万口当たりで表示しています。)	繰上償還	次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了(繰上償還)することがあります。 ・信託契約を解約することが受益者のために有利であると認める場合 ・純資産総額が30億円を下回ることとなった場合 ・やむを得ない事情が発生した場合
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。		
換金単位	販売会社が定める単位	決算日	毎年5月10日(休業日の場合は翌営業日)
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額	収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。 ※お申込コースには、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」があります。 ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせください。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。		
申込締切時間	原則として営業日の午後3時30分までに販売会社が受付けたものを当日分のお申込みとします。なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。	課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※税法が改正された場合等には、上記内容が変更となる場合があります。
購入・換金申込不可日	以下のいずれかに該当する日には、購入・換金のお申込みの受付を行いません。 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ロンドン証券取引所の休業日 ・ニューヨークの銀行の休業日 ・ロンドンの銀行の休業日		
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。		
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。		

ファンドの費用

以下の手数料等の合計額、その上限額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。
 ※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となる場合があります。

● 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に、 3.3%(税抜3.0%) を上限として、販売会社が別に定める手数料率を乗じて得た額となります。
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に 0.3% の率を乗じて得た額を、換金時にご負担いただきます。

● 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	<p>ファンドの日々の純資産総額に対して 年率 1.738%(税抜1.58%)</p> <p>※信託報酬には、サーキュラー・エコノミー・マザーファンドの株式等の運用の指図に関する権限の委託を受けた投資顧問会社(ロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(ヨーロッパ)リミテッド)に対する報酬(当ファンドの信託財産に属する当該マザーファンドの純資産総額に対して年率0.6%)が含まれます。なお、当該投資顧問会社に対する報酬には、ロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(スイス)エス・エーおよびロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(USA)コープに対する報酬が含まれます。</p>
その他の費用・ 手数料	<p>その他の費用・手数料として、お客様の保有期間中、以下の費用等を信託財産からご負担いただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料 ・信託事務の処理に要する諸費用 ・外国での資産の保管等に要する費用 ・監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 等 <p>※これらの費用等は、定期的に見直されるものや売買条件等により異なるものがあるため、事前に料率・上限額等を示すことができません。</p>

投資信託に関する留意点

投資信託は、

- 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
- 購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

当資料のお取扱いについてのご注意

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成した販売用資料です。
- お申込みに際しては、販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。また、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益は全て投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

◆収益分配金に関する留意事項◆

- 収益分配は、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。))を超えて行われる場合があります。したがって、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者の個別元本の状況によっては、分配金の全額または一部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。個別元本とは、追加型投資信託を保有する受益者毎の取得元本のことです。受益者毎に異なります。
- 分配金は純資産総額から支払われます。このため、分配金支払い後の純資産総額は減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中の運用収益以上に分配金の支払いを行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することとなります。

委託会社およびファンドの関係法人

- <委託会社>アセットマネジメントOne株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号
 加入協会:一般社団法人資産運用業協会
- <受託会社>みずほ信託銀行株式会社
- <販売会社>販売会社一覧をご覧ください。

委託会社の照会先

- アセットマネジメントOne株式会社
 コールセンター 0120-104-694
 (受付時間:営業日の午前9時~午後5時)
- ホームページ URL <https://www.am-one.co.jp/>

販売会社一覧（お申込み、投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください）

○印は協会への加入を意味します。

2026年6月17日現在

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	備考
株式会社みずほ銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第6号	○		○	○	
みずほ証券株式会社 ※4	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号	○	○	○	○	

●他にもお取扱いを行っている販売会社がある場合があります。

また、上記の販売会社は今後変更となる場合があるため、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

●販売会社によってお申込みの条件、制限等が異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

<備考欄について>

※1 新規募集の取扱いおよび販売業務を行っておりません。

※2 備考欄に記載されている日付からのお取扱いとなりますのでご注意ください。

※3 備考欄に記載されている日付からお取扱いを行いませんのでご注意ください。

※4 一般社団法人日本STO協会にも加入しています。

(原則、金融機関コード順)

指数の著作権などについて

MSCI ワールド・中小型株インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

世界産業分類基準(GICS)は、MSCI Inc.(MSCI)およびStandard & Poor's Financial Services LLC(S&P)により開発された、MSCIおよびS&Pの独占的権利およびサービスマークであり、アセットマネジメントOne株式会社に対し、その使用が許諾されたものです。MSCI、S&P、およびGICSまたはGICSによる分類の作成または編纂に関与した第三者のいずれも、かかる基準および分類(並びにこれらの使用から得られる結果)に関し、明示黙示を問わず、一切の表明保証をなさず、これらの当事者は、かかる基準および分類に関し、その新規性、正確性、完全性、商品性および特定目的への適合性についての一切の保証を、ここに明示的に排除します。上記のいずれをも制限することなく、MSCI、S&P、それらの関係会社、およびGICSまたはGICSによる分類の作成または編纂に関与した第三者は、いかなる場合においても、直接、間接、特別、懲罰的、派生的損害その他一切の損害(逸失利益を含みます。)につき、かかる損害の可能性を通知されていた場合であっても、一切の責任を負うものではありません。